

## 新生児の低体温についての注意喚起

先日、新生児の体温管理に関する警鐘事例が報告されました。初期の適切な対応で体温を低下させないこと、低体温に陥った場合は速やかに復温処置を行うことが重要です。新生児の体温管理の重要性をいま一度認識し、生命の安全を図ってください。

NCPR2015の改訂で、蘇生のアルゴリズムに「体温管理」が加えられました。出生後、速やかに乾いた布などで羊水を拭き取り、乾燥と保温に努め、適切な環境の下で体温が保持できるようにすることの重要性が強調されています。

低体温は徐脈、無呼吸発作を誘発し、さらに進行すると全身の循環不全から死に至ることもあります。新生児の低体温は環境を整えることで、そのほとんどが予防できます。

バイタルサインの異常があった時は、改善するまで医療者の管理下で経過観察し、重篤な全身疾患の早期発見に努めましょう。早発型の敗血症、髄膜炎、肺炎では体温が不安定で発熱より低体温が多いと言われています。低体温のリスクや要因を正しくアセスメントし、適切なケアを行っても体温が不安定な場合には、適切な管理のできる高次医療機関への搬送も躊躇しないことが大切です。

### 新生児の「not doing well」は何か重篤な疾患のサインと心にとめ観察しましょう

#### 参考文献

- ・南宏尚編，新生児疾患鑑別&ケアナビゲーション：症状別 緊急度・重症度 map でよくわかる！（ネオネイタルケア 2010 年秋季増刊），メディカ出版，2010.
- ・細野茂春監修，日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト，メジカルビュー社，2016.
- ・公益社団法人日本助産師会，助産業務ガイドライン 2019，日本助産師会出版，2019.